

(様式第 10)

番 号  
平成 26 年 10 月 3 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 聖マリアン  
理事長 明石 勝

聖マリアンナ医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 25 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

|     |                                |
|-----|--------------------------------|
| 住 所 | 〒216-8511 神奈川県川崎市宮前区菅生2丁目16番1号 |
| 氏 名 | 学校法人 聖マリアンナ医科大学 理事長 明石 勝也      |

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

|                   |
|-------------------|
| 学校法人 聖マリアンナ医科大学病院 |
|-------------------|

3 所在の場所

|  |
|--|
| 〒216-8511<br>神奈川県川崎市宮前区菅生2丁目16番1号<br>電話(044)977-8111 |
|--|

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

|   |
|---|
| ①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜<br>2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜 |
|---|

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

|  |         |
|--|---------|
| 内科   | (有) ・ 無 |
| 内科と組み合わせた診療科名等<br>1 内科 2 呼吸器・感染症内科 3 消化器・肝臓内科 4 循環器内科 5 腎臓内科 6 神経内科<br>7 血液内科 8 代謝・内分泌内科 9 リウマチ科 10 腫瘍内科 |         |
| 診療実績   |         |

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

|   |         |
|---|---------|
| 外科  | (有) ・ 無 |
| 外科と組み合わせた診療科名<br>1 呼吸器外科 2 消化器外科 3 乳腺・内分泌外科 4 心臓血管外科 5 小児外科 |         |
| 診療実績  |         |

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

|  |
|--|
| ①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科<br>8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科<br>⑮麻酔科 16救急科 |
|--|

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

|               |         |   |   |   |   |   |
|---------------|---------|---|---|---|---|---|
| 歯科            | 有 ・ (無) |   |   |   |   |   |
| 歯科と組み合わせた診療科名 |         |   |   |   |   |   |
| 1             | 2       | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 歯科の診療体制       |         |   |   |   |   |   |

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

|        |         |    |    |    |    |    |
|--------|---------|----|----|----|----|----|
| 1 形成外科 | 2 病理診断科 | 3  | 4  | 5  | 6  | 7  |
| 8      | 9       | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15     | 16      | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

|     |     |    |    |       |       |
|-----|-----|----|----|-------|-------|
| 精神  | 感染症 | 結核 | 療養 | 一般    | 合計    |
| 52床 | 床   | 床  | 床  | 1156床 | 1208床 |

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成 26 年 10 月 1 日現在)

| 職 種   | 常 勤  | 非常勤   | 合 計    | 職 種     | 員 数  | 職 種         | 員 数  |
|-------|------|-------|--------|---------|------|-------------|------|
| 医 師   | 543人 | 8人    | 551人   | 看護補助者   | 127人 | 診療エックス線技師   | 人    |
| 歯科医師  | 人    | 人     | 人      | 理学療法士   | 19人  | 臨床検査技師      | 106人 |
| 薬剤師   | 74人  | 人     | 74人    | 作業療法士   | 8人   | 衛生検査技師      | 人    |
| 保健師   | 84人  | 1.1人  | 85.1人  | 視能訓練士   | 9人   | その他         | 13人  |
| 助産師   | 39人  | 0.3人  | 39.3人  | 義肢装具士   | 人    | あん摩マッサージ指圧師 | 人    |
| 看護師   | 878人 | 22.2人 | 900.2人 | 臨床工学技士  | 28人  | 医療社会事業従事者   | 10人  |
| 准看護師  | 3人   | 人     | 3人     | 栄 養 士   | 2人   | その他の技術員     | 39人  |
| 歯科衛生士 | 人    | 人     | 人      | 歯科技工士   | 人    | 事務職員        | 276人 |
| 管理栄養士 | 15人  | 人     | 15人    | 診療放射線技師 | 62人  | その他の職員      | 2人   |

(注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成 26 年 10 月 1 日現在)

| 専門医名    | 人 数 | 専門医名     | 人 数  |
|---------|-----|----------|------|
| 総合内科専門医 | 31人 | 眼科専門医    | 9人   |
| 外科専門医   | 51人 | 耳鼻咽喉科専門医 | 7人   |
| 精神科専門医  | 5人  | 放射線科専門医  | 19人  |
| 小児科専門医  | 22人 | 脳神経外科専門医 | 10人  |
| 皮膚科専門医  | 8人  | 整形外科専門医  | 19人  |
| 泌尿器科専門医 | 5人  | 麻酔科専門医   | 7人   |
| 産婦人科専門医 | 21人 | 救急科専門医   | 8人   |
|         |     | 合 計      | 222人 |

(注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 1 位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

|              | 歯科等以外    | 歯科等 | 合 計      |
|--------------|----------|-----|----------|
| 1日当たり平均入院患者数 | 826.1 人  | 人   | 826.2 人  |
| 1日当たり平均外来患者数 | 2389.2 人 | 人   | 2389.3 人 |
| 1日当たり平均調剤数   |          |     | 1,765 剤  |
| 必要医師数        |          |     | 223人     |
| 必要歯科医師数      |          |     | 0人       |
| 必要薬剤師数       |          |     | 28人      |
| 必要(准)看護師数    |          |     | 494人     |

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

## 9 施設の構造設備

| 施設名      | 床面積   | 主要構造     | 設 備 概 要   |  |         |            |
|----------|---|----------|-----------|--|---------|------------|
|          |   |          | 病床数       |  | 心電計     |            |
| 集中治療室    | m <sup>2</sup><br>下記参照  | 鉄筋コンクリート | 病床数       | 35床  | 心電計     | (有)・無      |
|          |   |          | 人工呼吸装置    | (有)・無  | 心細動除去装置 | (有)・無      |
|          |   |          | その他の救急生装置 | (有)・無  | ペースメーカー | (有)・無      |
| 無菌病室等    | [固定式の場合] 床面積 98.88 m <sup>2</sup><br>[移動式の場合] 台数 3台                         |          | 病床数       | 10床  |         |            |
| 医薬品情報管理室 | [専用室の場合] 床積 40.5 m <sup>2</sup><br>[共用室の場合] 共用する室名 薬剤部 (TDM室 薬物血中濃度モニタリング室) |          |           |  |         |            |
| 化学検査室    | 360 m <sup>2</sup>  | 鉄筋コンクリート | (主な設備)    | フリーザー、浸透圧測定装置、分光光度計、生化学自動分析装置、純水装置、安全キャビネット、乾熱滅菌器、自動分注仕分装置 |         |            |
| 細菌検査室    | 153 m <sup>2</sup>  | 鉄筋コンクリート | (主な設備)    | 測定機器、フラン器、高圧滅菌器、遠心器、顕微鏡、冷蔵冷凍庫等                             |         |            |
| 病理検査室    | 385.96 m <sup>2</sup>   | 鉄筋コンクリート | (主な設備)    | システムバーコード印字機、自動包埋装置、自動染色装置                                 |         |            |
| 病理解剖室    | 134.81 m <sup>2</sup>   | 鉄筋コンクリート | (主な設備)    | 解剖台、高圧滅菌装置、真空パック装置   |         |            |
| 研究室      | 1874.54 m <sup>2</sup>  | 鉄筋コンクリート | (主な設備)    | 遠心分離機、超低温フリーザー、顕微鏡、高圧タンク、超純水装置                             |         |            |
| 講義室      | 1547.35 m <sup>2</sup>  | 鉄筋コンクリート | 室数        | 5室   | 収容定員    | 1,164人     |
| 図書室      | 1016.96 m <sup>2</sup>  | 鉄筋コンクリート | 室数        | 1室   | 蔵書数     | 140,000冊程度 |

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

集中治療室 CCU6床 107.8m<sup>2</sup> (1床当たり17.9m<sup>2</sup>)、ICU7床 146.2m<sup>2</sup> (1床当たり20.8m<sup>2</sup>)  
 SCU4床 86.9m<sup>2</sup> (1床当たり21.7m<sup>2</sup>)、MFICU6床 107.0m<sup>2</sup> (1床当たり17.8m<sup>2</sup>)、  
 NICU12床 230.2m<sup>2</sup> (1床当たり19.1m<sup>2</sup>)

## 10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

| 算定期間 |                        | 平成25年4月1日～平成26年3月31日 |         |
|------|------------------------|----------------------|---------|
| 紹介率  | 51.5%                  | 逆紹介率                 | 42.7%   |
| 算出根拠 | A: 紹介患者の数              |                      | 20,129人 |
|      | B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数  |                      | 18,336人 |
|      | C: 救急用自動車によって搬入された患者の数 |                      | 2,025人  |
|      | D: 初診の患者の数             |                      | 42,940人 |

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

| 先進医療の種類              | 取扱患者数 |
|----------------------|-------|
| 多血小板血漿を用いた難治性皮膚潰瘍の治療 | 10人   |
|                      | 人     |
|                      | 人     |
|                      | 人     |
|                      | 人     |
|                      | 人     |
|                      | 人     |
|                      | 人     |
|                      | 人     |
|                      | 人     |
|                      | 人     |
|                      | 人     |
|                      | 人     |
|                      | 人     |
|                      | 人     |
|                      | 人     |
|                      | 人     |
|                      | 人     |
|                      | 人     |
|                      | 人     |
|                      | 人     |
|                      | 人     |

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。  
(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

| 先進医療の種類   | 取扱患者数 |
|---|-------|
| 急性心筋梗塞に対するエポエチンベータ投与療法 急性心筋梗塞(再灌流療法の成功したものに限る。)                         | 4人    |
| 術後のホルモン療法及びS-1内服投与の作用療法の併用療法原発性乳がん<br>(エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。) | 3人    |
| オクトレオチド皮下注射療法先天性高インスリン血症  | 0人    |
|   | 人     |
|   | 人     |
|   | 人     |
|   | 人     |
|   | 人     |
|   | 人     |
|   | 人     |
|   | 人     |
|   | 人     |
|   | 人     |
|   | 人     |
|   | 人     |
|   | 人     |
|   | 人     |
|   | 人     |
|   | 人     |
|   | 人     |
|   | 人     |
|   | 人     |
|   | 人     |
|   | 人     |

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示  
第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

|           |  |       |   |
|-----------|--|-------|---|
| 医療技術名     |  | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 |  |       |   |
| 医療技術名     |  | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 |  |       |   |
| 医療技術名     |  | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 |  |       |   |
| 医療技術名     |  | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 |  |       |   |
| 医療技術名     |  | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 |  |       |   |
| 医療技術名     |  | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 |  |       |   |
| 医療技術名     |  | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 |  |       |   |
| 医療技術名     |  | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 |  |       |   |

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

| 疾 患 名  | 取扱患者数 | 疾 患 名   | 取扱患者数 |
|--|-------|---|-------|
| ・ベーチェット病                                       | 277人  | ・膿疱性乾癬  | 13人   |
| ・多発性硬化症  | 109人  | ・広範脊柱管狭窄症   | 1902人 |
| ・重症筋無力症  | 167人  | ・原発性胆汁性肝硬変  | 376人  |
| ・全身性エリテマトーデス                                   | 1252人 | ・重症急性膵炎   | 11人   |
| ・スモン   | 3人    | ・特発性大腿骨頭壊死症   | 98人   |
| ・再生不良性貧血                                       | 128人  | ・混合性結合組織病   | 189人  |
| ・サルコイドーシス                                      | 210人  | ・原発性免疫不全症候群   | 4人    |
| ・筋萎縮性側索硬化症                                     | 27人   | ・特発性間質性肺炎   | 54人   |
| ・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎                               | 639人  | ・網膜色素変性症  | 60人   |
| ・特発性血小板減少性紫斑病                                  | 177人  | ・プリオン病  | 2人    |
| ・結節性動脈周囲炎                                      | 241人  | ・肺動脈性肺高血圧症  | 192人  |
| ・潰瘍性大腸炎  | 419人  | ・神経線維腫症   | 28人   |
| ・大動脈炎症候群                                       | 54人   | ・亜急性硬化性全脳炎  | 0人    |
| ・ビュルガー病  | 324人  | ・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群  | 2人    |
| ・天疱瘡   | 55人   | ・慢性血栓塞栓性肺高血圧症   | 19人   |
| ・脊髄小脳変性症                                       | 127人  | ・ライソゾーム病  | 1人    |
| ・クローン病   | 123人  | ・副腎白質ジストロフィー  | 4人    |
| ・難治性の肝炎のうち劇症肝炎                                 | 5人    | ・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)   | 94人   |
| ・悪性関節リウマチ                                      | 160人  | ・脊髄性筋委縮症  | 4人    |
| ・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、<br>大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病) | 896人  | ・球脊髄性筋委縮症   | 5人    |
| ・アミロイドーシス                                      | 98人   | ・慢性炎症性脱髄性多発神経炎  | 49人   |
| ・後縦靭帯骨化症                                       | 98人   | ・肥大型心筋症   | 208人  |
| ・ハンチントン病                                       | 3人    | ・拘束型心筋症   | 1人    |
| ・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)                             | 33人   | ・ミトコンドリア病   | 2人    |
| ・ウェゲナー肉芽腫症                                     | 92人   | ・リンパ管筋腫症(LAM)   | 0人    |
| ・特発性拡張型(うっ血型)心筋症                               | 169人  | ・重症多形滲出性紅斑(急性期)   | 38人   |
| ・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリーブ橋<br>小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群) | 39人   | ・黄色靭帯骨化症  | 33人   |
| ・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)                            | 3人    | ・間脳下垂体機能障害<br>(PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD<br>H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング<br>病、先端巨大症、下垂体機能低下症) | 1005人 |

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|---------|---------|
| 別紙参照    | .       |
| .       | .       |
| .       | .       |
| .       | .       |
| .       | .       |
| .       | .       |
| .       | .       |
| .       | .       |
| .       | .       |
| .       | .       |
| .       | .       |
| .       | .       |
| .       | .       |
| .       | .       |
| .       | .       |
| .       | .       |
| .       | .       |
| .       | .       |
| .       | .       |
| .       | .       |
| .       | .       |
| .       | .       |
| .       | .       |
| .       | .       |
| .       | .       |
| .       | .       |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|---------|---------|
| 別紙参照    | ・       |
| ・       | ・       |
| ・       | ・       |
| ・       | ・       |
| ・       | ・       |
| ・       | ・       |
| ・       | ・       |
| ・       | ・       |
| ・       | ・       |
| ・       | ・       |
| ・       | ・       |
| ・       | ・       |
| ・       | ・       |
| ・       | ・       |
| ・       | ・       |
| ・       | ・       |
| ・       | ・       |
| ・       | ・       |
| ・       | ・       |
| ・       | ・       |
| ・       | ・       |
| ・       | ・       |
| ・       | ・       |
| ・       | ・       |
| ・       | ・       |
| ・       | ・       |

# 施設基準届出状況

保険医療機関  
特定機能病院      がん診療連携拠点病院      肝疾患診療連携拠点病院      入院時食事療養（Ⅰ）

## < 基本診療料 >

- 特定機能病院入院基本料（一般7対1）
- 特定機能病院入院基本料（精神10対1）
- 臨床研修病院入院診療加算 基幹型
- 救急医療管理加算
- 超急性期脳卒中加算
- 妊産婦緊急搬送入院加算
- 診療録管理体制加算
- 25対1 急性期看護補助体制加算（看護補助者5割以上）
- 無菌治療室管理加算 2
- 緩和ケア診療加算
- 精神科身体合併症管理加算
- 精神科リエゾンチーム加算
- がん診療連携拠点病院加算
- 医療安全対策加算 1
- 感染防止対策加算 1
- 患者サポート充実体制加算
- 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
- ハイリスク妊娠管理加算
- ハイリスク分娩管理加算
- 退院調整加算
- 救急搬送患者地域連携紹介加算
- 総合評価加算
- 呼吸ケアチーム加算
- 後発医薬品使用体制加算 2
- 疼痛薬剤業務実施加算
- データ提出加算 2
- 救命救急入院料 1
- 救命救急入院料 4
- 特定集中治療室管理料 3
- 総合産科特定集中治療室管理料
- 新生児治療回復室入院医療管理料
- 小児入院医療管理料 1

## < 特掲診療料 >

- 心臓ペースメーカー指導管理料（植込型除細動器移行加算）
- 高度難聴指導管理料
- 糖尿病合併症管理料
- がん性疼痛緩和指導管理料
- がん患者指導管理料 1
- がん患者指導管理料 2
- がん患者指導管理料 3
- 移植後患者指導管理料 1（臓器移植後の場合）
- 移植後患者指導管理料 2（造血幹細胞移植後の場合）
- 糖尿病透析予防指導管理料
- 院内トリアージ実施料
- 外来リハビリテーション診療料
- 外来放射線照射診療料
- ニコチン依存症管理料
- 地域連携診療計画管理料
- がん治療連携計画策定料 1
- がん治療連携計画策定料 2
- がん治療連携管理料
- 認知症専門診断管理料
- 肝炎インターフェロン治療計画料
- 薬剤管理指導料
- 医療機器安全管理料 1
- 医療機器安全管理料 2
- 在宅血液透析指導管理料
- 持続血糖測定器加算
- 造血管腫瘍遺伝子検査
- HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
- 検体検査管理加算（Ⅰ）
- 検体検査管理加算（Ⅲ）
- 検体検査管理加算（Ⅳ）
- 心臓カテーテル法による猪検査の血管内視鏡検査加算
- 植込型心電図検査
- 時間内歩行試験
- 胎児心エコー法
- ヘッドアップティルト試験
- 皮下連続式グルコース測定
- 神経学的検査
- ロービジョン検査判断料
- コンタクトレンズ検査料 1
- 小児食物アレルギー負荷検査
- 内服・点滴誘発試験
- センチネルリンパ節生検（乳がんに係るものに限る。）
- 画像診断管理加算 1
- 画像診断管理加算 2
- CT撮影及びMRI撮影
- 冠動脈CT撮影加算
- 外傷全身CT加算
- 大腸CT撮影加算
- 心臓MRI撮影加算
- 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- 外来化学療法加算 1
- 無菌製剤処理料
- 心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
- 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
- 運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
- 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
- がん患者リハビリテーション
- 認知症患者リハビリテーション
- 抗精神薬特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）
- 医療保護入院等診療料
- エタノールの局所注入（甲状腺に対するもの）
- エタノールの局所注入（副甲状腺に対するもの）
- 透析液水質確保加算 2
- 一酸化窒素吸入療法
- 皮膚悪性腫瘍切除術（悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。）
- 組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合に限る。）
- 骨移植術（軟骨移植を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）
- 腫瘍骨性骨全摘術
- 脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
- 緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのもの））
- 網膜再建術
- 人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
- 内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型（拡大副鼻腔手術）
- 乳がんセンチネルリンパ節加算 1
- 乳がんセンチネルリンパ節加算 2
- ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
- 経皮的冠動脈形成術
- 経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
- 経皮的冠動脈ステント留置術
- 経皮的中隔心筋焼灼術
- ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
- 植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
- 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
- 植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術（レーザーシースを用いるもの）
- 両室ペースメーカー付植込型除細動器移植術及び両室ペースメーカー付植込型除細動器交換術
- 大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
- 補助人工心臓
- 経皮的冠動脈造影術
- ダメージコントロール手術
- 腹腔鏡下肝切除術
- 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
- 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- 腹腔鏡下小切開副腎摘出術
- 腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎（尿管）悪性腫瘍手術
- 同種死体腎移植術
- 生体腎移植術
- 腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍摘出術
- 腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
- 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
- 医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6（歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。）に掲げる手術
- 輸血管理料 Ⅰ
- 輸血適正使用加算
- 人工肛門・人工膀胱増設術前処置加算
- 麻酔管理料（Ⅰ）
- 麻酔管理料（Ⅱ）
- 放射線治療専任加算
- 外来放射線治療加算
- 高エネルギー放射線治療
- 1回線量増加加算
- 画像誘導放射線治療加算（IGRT）
- 体外照射呼吸性移動対策加算
- 定位放射線治療
- 定位放射線治療呼吸移動対策加算
- 病理診断管理加算 2

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

| 施設基準等の種類                | 施設基準等の種類 |
|-------------------------|----------|
| ・抗悪性腫瘍剤感受性検査 (H2404)    | ・        |
| ・超音波骨折治療法 (H2404)       | ・        |
| ・腹腔鏡下直腸脱手術 (H2404)      | ・        |
| ・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離 (H2404) | ・        |
|                         | ・        |
|                         | ・        |
|                         | ・        |
| ・                       | ・        |
| ・                       | ・        |
| ・                       | ・        |
| ・                       | ・        |
| ・                       | ・        |
| ・                       | ・        |
| ・                       | ・        |
| ・                       | ・        |
| ・                       | ・        |
| ・                       | ・        |

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

|                                     |   |
|-------------------------------------|---|
| 臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況                | ① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。<br>2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。           |
| 臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度 | 臨床病理検討会 年/4回<br>乳腺症例検討会1回/月、超音波症例検討会 1回/月<br>腎移植カンファレンス 1回/月程度(症例毎) |
| 剖 検 の 状 況                           | 剖検症例数 33 例 / 剖検率 5.4%   |

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

|    | 研究課題名                                    | 研究者氏名 | 所属部門           | 金額         | 補助元又は委託元      |
|----|--|-------|----------------|------------|---------------|
| 1  | 肺癌の組織型と遺伝子変異診断としてのイオン移動度分光測定式探知器による呼気分析  | 半田 寛  | 内科学(呼吸器・感染症内科) | 500,000    | 補委 (独)日本学術振興会 |
| 2  | DNA損傷修復経路における合成致死性を応用した乳癌の化学療法に関する研究     | 太田 智彦 | 応用分子腫瘍学        | 500,000    | 補委 (独)日本学術振興会 |
| 3  | K6およびK63ユビキチン鎖によるDNA修復制御機構               | 太田 智彦 | 応用分子腫瘍学        | 15,800,000 | 補委 (独)日本学術振興会 |
| 4  | 機能性RNA統合解析による日米欧の胃・大腸発癌の分子疫学的解明と臨床応用・癌予防 | 山本 博幸 | 内科学(消化器・肝臓内科)  | 4,900,000  | 補委 (独)日本学術振興会 |
| 5  | 休眠原始卵胞の人為的活性化技術を応用した新たな不妊治療法の開発          | 河村 和弘 | 産婦人科学(産科)      | 5,100,000  | 補委 (独)日本学術振興会 |
| 6  | 内視鏡的肺容量減量術における、肺内気流分布評価の有用性の検討           | 峯下 昌道 | 内科学(呼吸器・感染症内科) | 600,000    | 補委 (独)日本学術振興会 |
| 7  | 肺癌の早期発見システムとしてのイオン移動度分光測定式探知器による呼気分析     | 宮澤 輝臣 | 内科学(呼吸器・感染症内科) | 1,400,000  | 補委 (独)日本学術振興会 |
| 8  | ヒト培養細胞のカルバペネム系抗菌薬失活効果の解析                 | 竹村 弘  | 微生物学           | 1,200,000  | 補委 (独)日本学術振興会 |
| 9  | メラノサイト及びメラノーマ細胞におけるBMPとMitf、RETとの相互関係    | 川上 民裕 | 皮膚科学           | 1,000,000  | 補委 (独)日本学術振興会 |
| 10 | 卵子特異的リンカーヒストンによるクロマチンリモデリングと遺伝子初期化誘導     | 田中 守  | 産婦人科学(産科)      | 1,300,000  | 補委 (独)日本学術振興会 |
| 11 | 奇異性低流量低圧較差大動脈弁狭窄症の負荷時血行動態及び予後調査(多施設合同研究) | 出雲 昌樹 | 内科学(循環器内科)     | 1,000,000  | 補委 (独)日本学術振興会 |
| 12 | 高感度糖鎖解析システムを用いた新たな子宮頸癌診断・治療バイオマーカーの開発    | 戸澤 晃子 | 産婦人科学(婦人科)     | 1,200,000  | 補委 (独)日本学術振興会 |
| 13 | 効率の良い卵巣組織凍結・移植法の確立を目指した研究―若年女性癌患者のために    | 鈴木 直  | 産婦人科学(婦人科)     | 700,000    | 補委 (独)日本学術振興会 |

|    |   |        |               |           |    |            |
|----|---|--------|---------------|-----------|----|------------|
| 14 | 羊胎仔尿路閉塞後の腎・膀胱両機能温存型膀胱一羊水腔シャントチューブの開発              | 北川 博昭  | 外科学(小児外科)     | 1,300,000 | 補委 | (独)日本学術振興会 |
| 15 | 異所性妊娠モデル動物を用いた新規分子標的治療法の開発                        | 河村 和弘  | 産婦人科(産科)      | 1,100,000 | 補委 | (独)日本学術振興会 |
| 16 | 胎児尿路閉塞による委縮膀胱に胎児期ボツリヌス毒素を用いた効果                    | 長江 秀樹  | 外科学(小児外科)     | 1,400,000 | 補委 | (独)日本学術振興会 |
| 17 | 関節リウマチでの心臓MRIによる無症候性心病変の検出と意義:生物学的製剤の効果           | 小林 泰之  | 放射線医学         | 2,300,000 | 補委 | (独)日本学術振興会 |
| 18 | 二次的網膜神経節細胞変性における新規分子基盤の確立                         | 宗正 泰成  | 眼科学           | 1,500,000 | 補委 | (独)日本学術振興会 |
| 19 | 炎症惹起時の角膜幹細胞への影響—神経栄養因子を介在し、炎症から防御する可能性—           | 上野 宏樹  | 眼科学           | 1,500,000 | 補委 | (独)日本学術振興会 |
| 20 | PEG-IFN $\alpha$ /RBV療法のC型肝炎治療効果を予測する新規バイオマーカーの確立 | 黒川 真奈絵 | 生化学           | 800,000   | 補委 | (独)日本学術振興会 |
| 21 | 臨床治験を基盤とする糖尿病網膜症の発生病序の解明                          | 高木 均   | 眼科学           | 1,000,000 | 補委 | (独)日本学術振興会 |
| 22 | 視神経軸索障害における $\gamma$ セクレターゼとオートファジーの分子制御機構の解明     | 北岡 康史  | 眼科学           | 1,200,000 | 補委 | (独)日本学術振興会 |
| 23 | 慢性疾患に有用なホープレスネス尺度の開発と応用                           | 柴垣 有吾  | 内科学(腎臓・高血圧内科) | 2,800,000 | 補委 | (独)日本学術振興会 |
| 24 | ペプチドミクスで同定した血管炎の新たなバイオマーカーの臨床的意義の基盤解析             | 尾崎 承一  | 内科学(リ・膠・ア内科)  | 1,900,000 | 補委 | (独)日本学術振興会 |
| 25 | ヒトiPS細胞由来皮質運動神経シートの作成と移植応用                        | 鈴木 登   | 免疫学・病害動物学     | 1,900,000 | 補委 | (独)日本学術振興会 |
| 26 | ベーチェット病の自己抗体の解析:好中球遊走能にかかわるコフリンに対する抗体             | 大岡 正道  | 内科学(リ・膠・ア内科)  | 1,600,000 | 補委 | (独)日本学術振興会 |
| 27 | 移植腎の予後(線維化)を早期に決定づける因子の解明と診断への応用                  | 力石 辰也  | 腎泌尿器外科学       | 1,300,000 | 補委 | (独)日本学術振興会 |
| 28 | めまいリハビリテーションへの応用を目的とした耳石—眼反射の可塑性の検討               | 肥塚 泉   | 耳鼻咽喉科学        | 100,000   | 補委 | (独)日本学術振興会 |

|    |  |        |               |           |        |                    |
|----|--|--------|---------------|-----------|--------|--------------------|
| 29 | 片側内耳破壊ラットの脳片葉<br>プロテオーム解析                        | 深澤 雅彦  | 耳鼻咽喉科学        | 900,000   | 補<br>委 | (独)日本<br>学術振興<br>会 |
| 30 | 急性および慢性腎臓病に対する<br>新規腎疾患治療法の確立                    | 松井 勝臣  | 内科学(腎臓・高血圧内科) | 800,000   | 補<br>委 | (独)日本<br>学術振興<br>会 |
| 31 | 尿中マイクロRNAを指標とした<br>非侵襲的な膀胱腫瘍の新規診<br>断法および治療の試み   | 佐々木 秀郎 | 腎泌尿器外科学       | 900,000   | 補<br>委 | (独)日本<br>学術振興<br>会 |
| 32 | 7テスラMRIによるマウス内リン<br>パ水腫の観察および分子生物学<br>的解析        | 中村 学   | 耳鼻咽喉科学        | 1,300,000 | 補<br>委 | (独)日本<br>学術振興<br>会 |
| 33 | HTLV-1関連脊髄症において新<br>規に同定した病原性ヘルパー<br>CD4+T細胞の解析  | 山野 嘉久  | 難病治療研究センター    | 1,300,000 | 補<br>委 | (独)日本<br>学術振興<br>会 |
| 34 | メカニカルストレスに応答する軟<br>骨細胞核酸修復酵素活性調節<br>機構と軟骨変性機序の解析 | 遊道 和雄  | 難病治療研究センター    | 1,100,000 | 補<br>委 | (独)日本<br>学術振興<br>会 |
| 35 | クロザピンの治療抵抗性統合失<br>調症のP糖タンパク質を介した作<br>用機序解明の検討    | 長田 賢一  | 神経精神科学        | 1,500,000 | 補<br>委 | (独)日本<br>学術振興<br>会 |
| 36 | プロテオミクスを用いた抗癌剤<br>Naive患者における肝障害メカニ<br>ズムの解析     | 中野 浩   | 外科学(消化器・一般外科) | 1,900,000 | 補<br>委 | (独)日本<br>学術振興<br>会 |
| 37 | 親子の骨強化啓発活動の研究<br>(骨粗鬆症の一次予防への運<br>動・栄養指導方法の確立)   | 清水 弘之  | 整形外科          | 300,000   | 補<br>委 | (独)日本<br>学術振興<br>会 |
| 38 | 小児1型糖尿病患者のカーボカ<br>ウントを支援する携帯情報端末<br>アプリの開発と効果の検討 | 菅根田 瞬  | 小児科学          | 1,700,000 | 補<br>委 | (独)日本<br>学術振興<br>会 |
| 39 | 高齢者のメタボリックシンドローム<br>は改善するか? -健診での調<br>査-         | 鳥飼 圭人  | 内科学(総合診療内科)   | 300,000   | 補<br>委 | (独)日本<br>学術振興<br>会 |
| 40 | 非アルコール性脂肪肝炎発症に<br>おけるマクロファージ活性化の意<br>義の解明        | 永井 義夫  | 内科学(代謝・内分泌内科) | 1,200,000 | 補<br>委 | (独)日本<br>学術振興<br>会 |
| 41 | 病院環境における薬剤耐性菌制<br>御のリスクマネジメントに関する<br>研究          | 國島 広之  | 総合診療内科        | 1,400,000 | 補<br>委 | (独)日本<br>学術振興<br>会 |
| 42 | NSAID潰瘍のなりやすさは?<br>COX2 DNAメチル化へ<br>のピロリ菌感染の関与   | 安田 宏   | 内科学(消化器・肝臓内科) | 1,100,000 | 補<br>委 | (独)日本<br>学術振興<br>会 |
| 43 | ヌクレオフォスミン(NPM)の解<br>析による肝細胞癌発癌機構及び<br>その治療法の解明   | 榎本 武治  | 外科学(消化器・一般外科) | 800,000   | 補<br>委 | (独)日本<br>学術振興<br>会 |

|    |  |       |               |             |    |                 |
|----|--|-------|---------------|-------------|----|-----------------|
| 44 | 敗血症に伴う重症末梢神経炎の発生機序の解明と活性化第X因子阻害薬の保護効果の検討 | 日野 博文 | 麻酔学           | 500,000     | 補委 | (独)日本学術振興会      |
| 45 | 肝内脂肪量を指標とする生活習慣病予防と健康増進を目指す食事理論の構築       | 田中 逸  | 内科学(代謝・内分泌内科) | 1,400,000   | 補委 | (独)日本学術振興会      |
| 46 | 骨格筋損傷の修復に対するアイシングの影響と微弱電流併用効果に関する研究      | 藤谷 博人 | スポーツ医学        | 1,000,000   | 補委 | (独)日本学術振興会      |
| 47 | 多次元医用画像と深部情報可視化映像によるリアルタイム手術支援システムの開発    | 佐治 久  | 外科学(呼吸器外科)    | 1,100,000   | 補委 | (独)日本学術振興会      |
| 48 | N-acetylcysteineの精神病発症予防効果の検討            | 三宅 誕実 | 神経精神科学        | 700,000     | 補委 | (独)日本学術振興会      |
| 49 | 外傷性脊髄損傷治療における脂肪組織の有用性                    | 太田 有紀 | 薬理学           | 1,600,000   | 補委 | (独)日本学術振興会      |
| 50 | 妊娠期から行う児童虐待予防のための介入法構築に関する研究             | 水主川 純 | 産婦人科学         | 1,400,000   | 補委 | 厚生労働省           |
| 51 | 再発性多発軟骨炎の診断と治療体系の確立                      | 鈴木 登  | 免疫学・病害動物学     | 3,000,000   | 補委 | 厚生労働省           |
| 52 | HAMの革新的な治療法となる抗CCR4抗体療法の実用化に向けた開発        | 山野 嘉久 | 難病治療研究センター    | 101,054,000 | 補委 | 厚生労働省           |
| 53 | 治験の実施に関する研究「自家培養表皮」                      | 相原 正記 | 形成外科学         | 1,400,000   | 補委 | 公益社団法人<br>日本医師会 |

計 53

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

| 番号 | 発表者氏名              | 発表者の所属         | 題名   | 雑誌名   |
|----|--------------------|----------------|--|---|
| 1  | Satoshi Kishiro    | スポーツ医学         | Effects of STG Tendon harvest and BTB harvest on knee joint muscles -An immunohistochemical evaluation- 2013年4巻2号P49-59  | J. St. Marianna Univ 4巻2号P49-59 2013年                                 |
| 2  | Tatsuto Ito        | スポーツ医学         | Icing at early stage skeletal muscle regeneration. 2013年4巻2号P60-67   | J. St. Marianna Univ. 4巻2号P60-67 2013年                                |
| 3  | Ozaki Shoichi      | リウマチ膠原病アレルギー内科 | Clinical trial for Japanese patients with myeloperoxidase anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis: the JMAAV study. 2013年5月 17巻5号P700-704   | Clinical and experimental nephrology 17巻5号P700-704 2013年5月            |
| 4  | Kawakami Tamahiro  | 皮膚科            | Treatment for cutaneous arteritis patients with mononeuritis multiplex and elevated C-reactive protein.  | The Journal of Dermatology 40巻 P955-961 2013年7月                       |
| 5  | Mitomi Hirofumi    | リウマチ膠原病アレルギー内科 | Hypoxia-induced endogenous prostaglandin E2 negatively regulates hypoxia-enhanced aberrant overgrowth of rheumatoid synovial tissue.   | Modern Rheumatology 23巻6号P1069-1075 2013年8月                           |
| 6  | Yamada Hidehiro    | リウマチ膠原病アレルギー内科 | Combination therapy with beraprost and bosentan in early diffuse cutaneous systemic sclerosis  | Therapeutic Research 34巻9号 P1201-1201 2013年9月                         |
| 7  | Kitaoka Y          | 眼科             | Axonal protection by Nmnat3 overexpression with involvement of autophagy in optic nerve degeneration   | Cell Death and Disease 4号P1-13 2013年4月                                |
| 8  | Ueno H             | 眼科             | Alterations in the Corneal Nerve and Stem/Progenitor Cells in Diabetes: Preventive Effects of Insulin-Like Growth Factor-1 Treatment   | International Journal of Endocrinology 2014巻 ID312401 P1-8 2014年1月    |
| 9  | Shiono A           | 眼科             | Photoreceptor outer segment length, a prognostic factor for idiopathic epiretinal membrane surgery.  | Ophthalmology 120巻 4号 P788-794 2013年4月                                |
| 10 | Ichikawa D         | 腎臓・高血圧内科       | Renoprotective Effect of Renal Liver-Type Fatty Acid Binding Protein (L-FABP) and Angiotensin II Type 1a Receptor Loss in Renal Injury Caused by RAS Activation.   | American journal of physiology. Renal physiology 306巻 F655-F663 2014年 |
| 11 | Kenichiro Morisawa | 救急医学           | Difference in pulmonary permeability between indirect and direct acute respiratory distress syndrome assessed by the transpulmonary thermodilution technique : a prospective, observational, multi-institutional study | Journal of Intensive Care 2014巻 2号 P1-18 2014年3月                      |
| 12 | Machi Yanai        | 救急医学           | Separately or Combined, LukG/LukH Is Functionally Unique Compared to Other Staphylococcal Bicomponent Leukotoxins  | PLOS ONE 9巻2号P1-11 2014年2月  |
| 13 | Kato M             | 血液・腫瘍内科        | Double-hit lymphomas and complex variant translocations of t(14;18)(q32;q21.3)   | Annals of hematology 92巻 12号P1723-1725 2013年12月                       |
| 14 | Sakai H            | 血液・腫瘍内科        | Acute myeloid leukaemia with cup-like nuclei associated with t(9;22)(q34;q11.2)  | British journal of haematology 162巻2号 P145 2013年7月                    |

|    |                     |           |   |  |
|----|---------------------|-----------|---|--|
| 15 | Inoue Y             | 血液・腫瘍内科   | Role of serum high mobility group box 1 in hematological malignancies complicated with systemic inflammatory response syndrome and effect of recombinant thrombomodulin   | Leukemia & lymphoma 54巻9号P1953-1958 2013年9月  |
| 16 | Inoue Y             | 血液・腫瘍内科   | Recombinant thrombomodulin improved Stevens-Johnson syndrome with high serum high-mobility group-B1 DNA-binding protein induced by lenalidomide administered to treat multiple myeloma                            | Thrombosis Research 132巻4号P493-494 2013年10月  |
| 17 | Mineshita Masamichi | 呼吸器・感染症内科 | Vibration response imaging in healthy Japanese subjects   | Respiratory Investigation 52巻1号P28-35 2014年1月  |
| 18 | Mineshita Masamichi | 呼吸器・感染症内科 | Effects of bronchodilators on regional lung sound distribution in patients with chronic obstructive pulmonary disease   | Respiration 87巻1号P45-53 2014年1月  |
| 19 | Nakamura Haruhiko   | 呼吸器外科     | Impact of intraoperative blood loss on long-term survival after lung cancer resection   | Ann Thorac Cardiovasc surg 30巻2号doi10-5761/acs   |
| 20 | Saji Hisashi        | 呼吸器外科     | A Proposal for Combination of Total Number and Anatomical Location of Involved Lymph Nodes for Nodal Classification in Non-small Cell Lung Cancer   | Chest 143巻 6号P1618-1625 2013年6月  |
| 21 | Saji Hisashi        | 呼吸器外科     | Gene expression profiling and molecular pathway analysis for the identification of early-stage lung adenocarcinoma patients at risk for early recurrence  | Oncology reports 29巻5号P1902-1906 2013年5月   |
| 22 | Kurimoto Noriaki    | 呼吸器外科     | The usefulness of endobronchial ultrasonography-guided transbronchial needle aspiration at the lobar, segmental, or subsegmental bronchus smaller than a convex-type bronchoscope                                 | Journal of Bronchology and Interventional Pulmonology 21巻1号P6-13 2014年1月                                     |
| 23 | Kawamura Kazuhiro   | 産婦人科      | Hippo signaling disruption and Akt stimulation of ovarian follicles for infertility treatment.  | Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America 110巻43号P17474-17479 2013年10月 |
| 24 | Furukawa Toshiyuki  | 循環器内科     | Is head injury characteristic of arrhythmic syncope?  | Journal of Arrhythmia 29巻4号P217-220 2013年8月  |
| 25 | Kuwata Shingo       | 循環器内科     | A rare adult case of corrected transposition of the great vessels with situs inversus with a single coronary artery and an atrial septal defect.  | International journal of cardiology 168巻3号P.e91-93 2013年10月  |
| 26 | Yoneyama Kihei      | 循環器内科     | Metabolic planar imaging using 123I-β-methyl-iodophenyl pentadecanoic acid identifies myocardial ischemic memory after intracoronary acetylcholine provocation tests in patients with vasospastic angina.         | International Heart Journal 55巻2号P113-118 2014年3月  |
| 27 | Suzuki Kengo        | 循環器内科     | Simple exercise echocardiography using a Master's two-step test for early detection of pulmonary arterial hypertension.   | Journal of Cardiology 62巻3号P176-182  |
| 28 | Kida Keisuke        | 循環器内科     | Response to the letter regarding the article, "Late gadolinium enhancement on cardiac magnetic resonance images predicts reverse remodeling in patients with nonischemic cardiomyopathy treated with carvedilol". | International journal of cardiology 168巻4号P4351 2013年10月   |
| 29 | Kida Keisuke        | 循環器内科     | Late gadolinium enhancement on cardiac magnetic resonance images predicts reverse remodeling in patients with nonischemic cardiomyopathy treated with carvedilol.   | International journal of cardiology 168巻2号P1588-1589 2013年9月   |
| 30 | Tetsu Fukunaga      | 消化器・一般外科  | Oncologic Outcomes of Laparoscopy-Assisted Distal Gastrectomy for Gastric Cancer  | Annals of surgical oncology : the official journal of the Society of Surgical Oncology 20巻P2676-2682 2013年5月 |
| 31 | Masafumi Katayama   | 消化器・一般外科  | A Splenic Volume Increase Due to Preoperative Chemotherapy May Impair the Long-Term Outcome after Hepatectomy in Patients with Initially Non-Optimally Resectable Colorectal Cancer liver Metastases              | Hepato-gastroenterology 60巻P1420-1425 2013年9月  |

※

|    |                   |                |   |   |   |
|----|-------------------|----------------|---|---|---|
| 32 | Kazumi Tenjin     | 消化器・一般外科       | Changes in Serum Leptin and Body Composition in Gastric Cancer Postoperative Weight Loss  | Journal of St. Marianna University 4 卷2号P89-98 2013年12月             |   |
| 33 | Hiroyuki Hoshino  | 消化器・一般外科       | The Bifurcation Pattern of The Inferior Mesenteric Artery Using CT Angiography  | Journal of St. Marianna University 4 卷2号P81-87 2013年12月             |   |
| 34 | Nakahara Kazunari | 消化器・肝臓内科       | Covered metal stenting for malignant lower biliary stricture with pancreatic duct obstruction: is endoscopic sphincterotomy needed?   | Gastroenterology Research and Practice 2013卷P.n 2013年11月            | ※ |
| 35 | Nakahara Kazunari | 消化器・肝臓内科       | Use of Antithrombin and Thrombomodulin in the Management of Disseminated Intravascular Coagulation in Patients with Acute Cholangitis.  | Gut and Liver 7巻3号 P363-370 2013年5月                                 |   |
| 36 | Noguchi Yohei     | 消化器・肝臓内科       | Serum peptides, represented by complement 3f des-arginine, are useful for prediction of the response to pegylated interferon- $\alpha$ plus ribavirin in patients with chronic hepatitis C      | Hepatology Research 43巻7号 P743-756 2013年7月                          |   |
| 37 | Shigefuku Ryuta   | 消化器・肝臓内科       | Evaluation of Hepatic Tissue Blood Flow Using Xenon Computed Tomography with Fibrosis Progression in Nonalcoholic Fatty Liver Disease: Comparison with Chronic Hepatitis C                      | International Journal of Molecular Sciences 15巻1号P1026-1039 2014年1月 |   |
| 38 | Shigefuku Ryuta   | 消化器・肝臓内科       | Case of Nonalcoholic Steatohepatitis Occurring in Combination with Sleep Apnea Syndrome, Who Showed Improvement of Liver Function by Continuous Positive Airway Pressure                        | Journal of Clinical Case Reports 3巻10号P3-n 2013年                    | ※ |
| 39 | Ando Takashi      | 心臓血管外科         | Autoantigenicity of carbonic anhydrase 1 in patients with abdominal aortic aneurysm, revealed by proteomic surveillance.  | Human immunology 74巻7号P852-857 2013年7月                              |   |
| 40 | Tenjin T          | 神経精神科学         | Profile of blonanserin for the treatment of schizophrenia.  | Neuropsychiatric Disease and Treatment 9巻 P587-894 2013年4月          |   |
| 41 | Noguchi M         | 神経精神科学         | Roles of serum fibrinogen $\alpha$ chain-derived peptides in Alzheimer's disease.   | International journal of geriatric psychiatry Epub 2013年11月         | ※ |
| 42 | Shimizu T         | 内科学(神経内科)      | Association between paroxysmal atrial fibrillation and the left atrial appendage ejection fraction during sinus rhythm in the acute stage of stroke: a transesophageal echocardiographic study. | J Stroke Cerebrovasc Dis 22 巻8号P1370-1376 2013年                     |   |
| 43 | Shimizu Kanako    | 内科学(神経内科)      | Association between Inflammatory Biomarkers and Progression of Intracranial Large Artery Stenosis after Ischemic Stroke.  | J Stroke Cerebrovasc Dis 22 巻3号P211-217 2013年                       |   |
| 44 | Hiraki K          | リハビリ(腎臓・高血圧内科) | Decreased physical function in pre-dialysis patients with chronic kidney disease.   | Clinical and experimental nephrology 17巻2号 P225-231 2013年4月         |   |
| 45 | Sakurada T        | 腎臓・高血圧内科       | Efficacy of oral powder compared with chewable tablets for lanthanum carbonate administration in hemodialysis patients.   | Hemodialysis International 17巻 P.S2-S6 2013年10月                     | ※ |
| 46 | Hiraki K          | リハビリ(腎臓・高血圧内科) | Moderate-intensity single exercise session does not induce renal damage.  | Journal of clinical laboratory analysis 27巻3号P177-180 2013年5月       |   |
| 47 | Kojima S          | 腎臓・高血圧内科       | Proteomic analysis of whole glomeruli in patients with IgA nephropathy using microsieving.  | American journal of nephrology 39巻 P36-45 2014年1月                   |   |
| 48 | Aida Kouichirou   | 腎泌尿器外科学        | Suppression of Tregs by anti-glucocorticoid induced TNF receptor antibody enhances the antitumor immunity of interferon- $\alpha$ gene therapy for pancreatic cancer.                           | Cancer Science 105 巻2号P159-167 2014年2月                              |   |

|    |                   |                    |  |  |   |
|----|-------------------|--------------------|--|--|---|
| 49 | Izawa KP          | 整形外科科学             | Usefulness of Step Counts to Predict Mortality in Japanese Patients With Heart Failure.  | Am J Cardiol. 111<br>巻P1767-1771<br>2013年12月                                       |   |
| 50 | Kazuhiro P. Izawa | 整形外科科学             | Association between mental health and physical activity in patients with chronic heart failure   | Disabil Rehabil. 36<br>巻P250-254 2014<br>年2月                                       |   |
| 51 | Takaaki Hirano    | 整形外科科学             | Anatomical considerations for reconstruction of Lisfranc ligament  | J Orthop Sci. 18巻<br>P720-726 2013年9<br>月  |   |
| 52 | Kazuhiro Izawa    | 整形外科科学             | Research on leisure time physical activity and upper and lower extremity muscle strength levels associated with an exercise capacity of 5 metabolic equivalents in chronic heart failure patients. | J.St.Marianna Univ.<br>41巻P7-12 2013年<br>6月  |   |
| 53 | Tetsuo Kobayashi  | 整形外科科学             | Use of an antifibrotic agent improves the effect of platelet-rich plasma on muscle healing after injury.   | The Journal of Bone and<br>Joint Surgery American<br>Volume 95巻P980-988<br>2013年6月 |   |
| 54 | Hiroyuki Shimizu  | 整形外科科学             | Ultrasonographic Diagnosis for Tenosynovitis of Extensor Carpi Ulnaris.  | OMICS Journal of<br>Radiology 3巻<br>P157-158 2014年3<br>月                           |   |
| 55 | Yutaka Sasao      | 整形外科科学             | Sagittal alignment of spine and spinal cord for upper cervical irreducible atlantoaxial kyphosis in elderly patients   | Journal of spinal<br>disorders and<br>techniques 16巻7<br>号 PAP 2013年10<br>月        | ※ |
| 56 | Hiroataka Ikeda   | 放射線医学              | Image finding following vertebroplasty in osteoporotic vertebral compression fractures: Bone healing and sagittal alignment  | open Journal of<br>Radiology 3巻<br>P152-158 2013年8<br>月                            |   |
| 57 | Yoshioka T        | リウマチ膠原病アレルギー<br>内科 | Protein profiles of peripheral blood mononuclear cells as a candidate biomarker for Behcet's disease.  | Clinical and<br>experimental<br>rheumatology Epub<br>2013年11月                      | ※ |
| 58 | Yoshio Nagai      | 代謝・内分泌内科           | Comparison Between Shorter Straight and Thinner Microtapered Insulin Injection Needles   | Diabetes technology<br>& therapeutics 15巻7<br>号P550-555 2013年7<br>月                |   |
| 59 | Akio Ohta         | 代謝・内分泌内科           | Cold-loaded pain sensation test and current perception threshold for evaluating diabetic neuropathy  | Diabetol Int 4巻<br>P34-39 2013年4月  |   |
| 60 | Akio Ohta         | 代謝・内分泌内科           | Effect of insulin glargine on endogenous insulin secretion and beta-cell function in Japanese type 2 diabetic patients using oral antidiabetic drugs   | Endocrine J 61巻1<br>号P13-18 2014年1<br>月  |   |
| 61 | Akio Ohta         | 代謝・内分泌内科           | Comparison of the hypoglycemic effect of sitagliptin versus the combination of mitiglinide and voglibose in drug-naïve Japanese patients with type 2 diabetes                                      | Expert Opin<br>Pharmacother 14巻<br>17号P2315-2322<br>2013年12月                       |   |
| 62 | Hisashi Fukuda    | 代謝・内分泌内科           | Replication study for the association of a single-nucleotide polymorphism, rs3746876, within KCNJ15, with susceptibility to type 2 diabetes in a Japanese population                               | Journal of Human<br>Genetics 58巻7号<br>P490-493 2013年7<br>月                         |   |
| 63 | Oshio Kotaro      | 脳神経外科学             | Assessment of Brain Compliance using ICP Waveform Analysis in Water Intoxication Rat Model   | Acta neurochirurgica.<br>Supplement 118巻<br>P219-221 2013年4月                       |   |
| 64 | Kawakami T        | 皮膚科学               | Significance of two skin biopsy performances with consecutive deeper sections in the differential diagnosis between cutaneous polyarteritis nodosa and livedo vasculopathy.                        | Acta dermato-<br>venereologica 94号<br>P84-85 2014年                                 |   |
| 65 | Kawakami T        | 皮膚科学               | Cutaneous vasculitis associated with immunoglobulin G4 (IgG4)-related disease.   | Acta dermato-<br>venereologica 94号<br>P327-328 2014年                               |   |

|    |                   |                  |   |  |
|----|-------------------|------------------|---|--|
| 66 | Kawakami T        | 皮膚科学             | Serum anti-lysosomal-associated membrane protein-2 antibody levels in cutaneous polyarteritis nodosa.   | Acta dermatovenereologica 93卷1号P70-73 2013年              |
| 67 | Kimura S          | 皮膚科学             | Elevated serum levels of IL-6, IL-8 and antiphospholipid antibodies in adult patient with Henoch-Schönlein purpura.   | Clinical and experimental dermatology 38号P730-736 2013年  |
| 68 | Kawakami T        | 皮膚科              | Rituximab therapy for digital gangrene with microscopic polyangiitis refractory to corticosteroids and cyclophosphamide.  | The Journal of Dermatology 41卷2号P191-192 2014年           |
| 69 | Kawakami T        | 皮膚科              | Relationship among ANCA, BUN, and complement in patients with eosinophilic granulomatosis with polyangiitis (Churg-Strauss syndrome).   | The Journal of Dermatology 40卷7号P511-515 2013年           |
| 70 | Kawakami T        | 皮膚科              | Four mild but refractory cases of pemphigus foliaceus successfully treated with intravenous immunoglobulin.   | The Journal of Dermatology 10卷P1111 2013年10月             |
| 71 | Yasuyuki Kurihara | 放射線医学            | How Do Reviewers Affect the Final Outcome? Comparison of the Quality of Peer Review and Relative Acceptance Rates of Submitted Manuscripts  | American Journal of Roentgenology 201卷3号P468-470 2013年9月 |
| 72 | Hirota I Ikeda    | 放射線医学            | Image Findings Following Vertebroplasty in Osteoporotic Vertebral Compression Fractures: Bone Healing and Sagittal Alignment  | Open Journal of Radiology 3卷P152-158 2013年9月             |
| 73 | Suguru Igarashi   | 産婦人科             | N-butyl cyanoacrylate is very effective for massive haemorrhage during perinatal period.  | Plos One 8卷10号 2013年10月                                  |
| 74 | Umehara T         | 免疫学・病害動物学(整形外科学) | Transplantation of Motor Neurons Derived from Human iPS Cells into Total Transection Model of Spinal Cord Injury in Mice.   | St.Marianna Medical Journal 4卷2号P21-30 2013年12月          |
| 75 | Sakurai Kenzo     | 小児科              | Antenatal glucocorticoid administration enhances sarcoplasmic reticulum calcium transport ATPase 2a and phospholamban expression in the immature fetal rat heart.   | Journal of St. Marianna University 4卷2号P69-80 2013年12月   |
| 76 | Fumio Tsujimoto   | 臨床検査医学           | Microcalcifications in the breast detected by a color Doppler method using twinkling artifacts: some important discussions based on clinical cases and experiments with a new ultrasound modality called multidetector-ultrasonography(MD-US) | J Med Ultrasonics 41卷P99-108 2014年3月                     |
| 77 | Hasegawa Y        | 内科学(神経内科)        | Prediction of Thrombolytic Therapy after Stroke-Bypass Transportation: The Maria Prehospital Stroke Scale Score.  | J Stroke Cerebrovasc Dis 22卷4号P514-519 2013年             |
| 78 | Akiyama H         | 内科学(神経内科)        | Knowledge of transient ischemic attack among the Japanese.  | J Stroke Cerebrovasc Dis 22卷4号P457-464 2013年             |
| 79 | Akiyama H         | 内科学(神経内科)        | Stroke knowledge: a nationwide, internet-based survey of 11,121 inhabitants in Japan.   | Intern Med 52卷5号P529-537 2013年                           |
| 80 | Akiyama H         | 内科学(神経内科)        | Migraine Treated Using a Prophylactic Combination of Candesartan and Hydrochlorothiazide (ECARD(®) Combination Tablets LD)  | Pain Pract 13卷7号P566-571 2013年                           |
| 81 | Hagiwara Y        | 内科学(神経内科)        | Impact of life and family background on delayed presentation to hospital in acute stroke.   | J Stroke Cerebrovasc Dis 23卷4号P625-629 2014年             |
| 82 | Imai T            | 内科学(神経内科)        | Specific needs for telestroke networks for thrombolytic therapy in Japan.   | J Stroke Cerebrovasc Dis 23卷5号P811-816 2014年             |

|    |          |                      |   |  |
|----|----------|----------------------|---|--|
| 83 | Suzuki E | 難病治療研究センター(腎臓・高血圧内科) | Oncogene- and oxidative stress-induced cellular senescence shows distinct expression patterns of proinflammatory cytokines in vascular endothelial cells. | The Scientific World Journal 2013巻 754735号P1-6 2013年9月 |
| 84 | Saito A  | 免疫学・病害動物学            | IGFII/Akt Signaling Regulates Myocyte Homeostasis in Human Induced Pluripotent Stem (iPS) Cells.  | St.Marianna Medical Journal 4巻2号P41-48 2013年12月        |

※

計84

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

5 平成二十五年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

|   |      |
|---|------|
| ① 倫理審査委員会の設置状況  | 有・無  |
| ② 倫理審査委員会の手順書の整備状況  | 有・無  |
| ・ 手順書の主な内容<br>対象・申請研究の種類、倫理委員会の構成、審査について、臨床研究の事前登録について、利益相反について、補償制度について、重篤な有害事象について、各種報告について、講習会について |      |
| ③ 倫理審査委員会の開催状況  | 年12回 |

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(2) 利益相反を管理するための措置

|   |     |
|---|-----|
| ① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況     | 有・無 |
| ② 利益相反の管理に関する規定の整備状況                      | 有・無 |
| ・ 規定の主な内容<br>利益相反の定義、審議事項及び管理基準、開示方法等について |     |
| ③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況     | 年1回 |

(注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

|   |     |
|---|-----|
| ① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況                                   | 年6回 |
| ・ 研修の主な内容<br>臨床研究について・臨床試験の進め方、臨床試験の申請方法等、臨床研究の事前登録について |     |

(注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

後期臨床研修プログラムには、大別して二つのコースがあり、ひとつは臨床の研修を主体とする「任期付助教」コースである。このコースでは5年間の期間に専門分野の臨床研修を行い、当該分野の専門医を取得できるようにプログラムされている。内科系9分野と外科系5分野では、細分化された専門分野の研修に進む前に、前半の2~3年の間に広く内科または外科の各分野をラウンドするプログラムとなっている。これにより内科系または外科系の広い範囲の疾患に触れた後に、各専門領域の研修に進む。5年間の任期付助教の終了後には専門医の申請が可能だけの症例数が得られ、また、この期間は研究歴にも加算されるため、研究論文が学術誌に掲載されれば、医学博士の学位申請もできるようになっている。

もう一つのコースは、4年制の「大学院」コースである。このコースでは、指導教授のもとに4年間の学術研究を行い、その結果をもとに学位論文を作成して学術誌に掲載し、審査を受けることで医学博士を取得できる。一方で「診療助手」の職位のもと、病棟・外来での診療業務につくことも可能となる。これまで、臨床系の大学院生の大半は診療助手として、研究に専念する期間以外の時期に自分の目指す臨床分野の後期臨床研修を行っている。このコースでは医学博士と同時に専門医の取得が可能となる。

2 研修の実績

|        |      |
|--------|------|
| 研修医の人数 | 171人 |
|--------|------|

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

| 研修統括者氏名 | 診療科       | 役職等 | 臨床経験年数 | 特記事項 |
|---------|-----------|-----|--------|------|
| 松田 隆秀   | 内科        | 部長  | 34年    |      |
| 宮澤 輝巨   | 呼吸器・感染症内科 | 部長  | 39年    |      |
| 明石 嘉浩   | 循環器内科     | 部長  | 18年    |      |
| 伊東 文生   | 消化器・肝臓内科  | 部長  | 31年    |      |
| 柴垣 有吾   | 腎臓内科      | 部長  | 21年    |      |
| 田中 逸    | 代謝・内分泌内科  | 部長  | 28年    |      |
| 長谷川 泰弘  | 神経内科      | 部長  | 34年    |      |
| 三浦 偉久男  | 血液内科      | 部長  | 34年    |      |
| 山田 秀裕   | リウマチ科     | 部長  | 32年    |      |
| 朴 成和    | 腫瘍内科      | 部長  | 27年    |      |
| 山口 登    | 神経精神科     | 部長  | 36年    |      |
| 山本 仁    | 小児科       | 部長  | 35年    |      |
| 大坪 毅人   | 消化器外科     | 部長  | 28年    |      |
| 宮入 剛    | 心臓血管外科    | 部長  | 31年    |      |
| 中村 治彦   | 呼吸器外科     | 部長  | 33年    |      |
| 北川 博昭   | 小児外科      | 部長  | 34年    |      |
| 津川 浩一郎  | 乳腺・内分泌外科  | 部長  | 27年    |      |
| 田中 雄一郎  | 脳神経外科     | 部長  | 33年    |      |
| 別府 諸兄   | 整形外科      | 部長  | 39年    |      |
| 梶川 明義   | 形成外科      | 部長  | 30年    |      |
| 相馬 良直   | 皮膚科       | 部長  | 31年    |      |
| 力石 辰也   | 泌尿器科      | 部長  | 30年    |      |



|       |       |     |      |
|-------|-------|-----|------|
| 鈴木 直  | 産婦人科  | 部 長 | 24 年 |
| 高木 均  | 眼科    | 部 長 | 27 年 |
| 肥塚 泉  | 耳鼻咽喉科 | 部 長 | 33 年 |
| 中島 康雄 | 放射線科  | 部 長 | 37 年 |
| 館田 武志 | 麻酔科   | 部 長 | 36 年 |
| 高木 正之 | 病理診断科 | 部 長 | 32 年 |

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

|  |
|--|
| ① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）   |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容：がん診療に携る医療従事者に対する緩和ケア研修会</li><li>・研修の期間・実施回数：平成26年 7月5日～6日（2日間）・年1回</li><li>・研修の参加人数：14人</li></ul> |
| ② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）   |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容</li><li>・研修の期間・実施回数</li><li>・研修の参加人数</li></ul>  |
| ③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況   |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容</li><li>・研修の期間・実施回数</li><li>・研修の参加人数</li></ul>  |

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績（計画）を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

## (様式第5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

|         |  |
|---------|--|
| 計画・現状の別 | 1. 計画 2. 現状  |
| 管理責任者氏名 | 病院長 尾崎 承一  |
| 管理担当者氏名 | 総務部長 内海正昭、人事部長 赤坂兼啓、事務部長 細谷実知博<br>薬剤部長 増原慶壮、臨床検査部長 信岡祐彦、画像センター長 中島康雄<br>看護部長 本館教子、栄養部長 川島由起子 |

|  | 保管場所  | 管理方法  |
|--|---|---|
| 診療に関する諸記録<br>病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書 | 事務部、薬剤部、看護部、臨床検査部、病理診断科、内視鏡センター、画像センター、放射線治療センター、中央手術部、リハビリテーション部、輸血部、メディカルサポートセンター、診療記録管理室 | 診療記録は平成17年8月から電子化を開始した。診療記録は1患者1カルテ方式とし、入院は10年、外来5年の保存期間を規定としている。 |
| 病院の管理及び運営に関する諸記録   | 従業者数を明らかにする帳簿   | 人事課   |
|  | 高度の医療の提供の実績   | 事務部   |
|  | 高度の医療技術の開発及び評価の実績   | 事務部   |
|  | 高度の医療の研修の実績   | 事務部   |
|  | 閲覧実績  | 事務部   |
|  | 紹介患者に対する医療提供の実績   | メディカルサポートセンター   |
|  | 入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿   | 薬剤部   |
| 第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項の各号及び第九の二十第一項   | 医療に係る安全管理のための指針の整備状況  | 医療安全管理室   |
|  | 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況   | 医療安全管理室   |
|  | 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況  | 医療安全管理室   |
|  | 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況  | 医療安全管理室   |
|  | 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況   | 医療安全管理室   |
|  | 専任の院内感染対策を行う者の配置状況  | 感染制御部   |
|  | 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況   | 医療安全管理室   |
| 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況   | 医療安全管理室   |   |

|                  |   | 保管場所  | 管理方法        |
|------------------|---|---|-------------|
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第一一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況 | 院内感染のための指針の策定状況   | 感染制御部       |
|                  |   | 院内感染対策のための委員会の開催状況                                      | 感染制御部       |
|                  |   | 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況                                | 感染制御部       |
|                  |   | 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況             | 感染制御部       |
|                  |   | 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況                              | 薬剤部         |
|                  |   | 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況                              | 薬剤部         |
|                  |   | 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況              | 薬剤部         |
|                  |   | 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況   | 薬剤部         |
|                  |   | 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況                                   | クリニカルエンジニア部 |
|                  |   | 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況                             | クリニカルエンジニア部 |
|                  |   | 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況                           | クリニカルエンジニア部 |
|                  |   | 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | クリニカルエンジニア部 |

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

|   |             |      |
|---|-------------|------|
| 計画・現状の別   | 1. 計画       | ② 現状 |
| 閲覧責任者氏名   | 病院長 尾崎 承一   |      |
| 閲覧担当者氏名   | 事務部長 細谷 実知博 |      |
| 閲覧の求めに応じる場所   | 事務部 管理課     |      |
| 閲覧の手続の概要  |             |      |
| ◎診療録関係  |             |      |
| (院内)  |             |      |
| 附属病院における診療記録管理規定に基づき閲覧を行っている。   |             |      |
| (院外)  |             |      |
| 開示指針、並びに診療記録管理規定に基づき閲覧を行っている。   |             |      |
| ◎管理運営関係   |             |      |
| 管理課にて必要部門長の承認を得たのち会議室において、管理課担当者立会いのもと閲覧する。<br>(貸出し・コピーは厳禁) 閲覧後、閲覧者は、閲覧書類を確認し、返却する。 |             |      |

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

|           |         |   |     |
|-----------|---------|---|-----|
| 前年度の総閲覧件数 | 延       | 2 | 件   |
| 閲覧者別      | 医 師     | 延 | 件   |
|           | 歯 科 医 師 | 延 | 件   |
|           | 国       | 延 | 1 件 |
|           | 地方公共団体  | 延 | 1 件 |

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の1第1項各号及び第9条の2第3第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

|  |     |
|--|-----|
| ① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況   | 有 無 |
| <p>・医療安全管理指針 平成12年4月 1日 策定<br/>平成15年9月 29日 改正<br/>平成16年3月 1日 改正<br/>平成20年2月 1日 改正<br/>平成21年1月 1日 改正<br/>平成22年4月 1日 改正<br/>平成23年5月 1日 改正<br/>平成24年4月 1日 改正<br/>平成25年4月 1日 改正<br/>平成26年4月 1日 改正</p> <p>・指針の主な内容：1. 基本理念<br/>2. 用語の定義<br/>3. 委員会、組織<br/>4. マニュアルの整備<br/>5. 職員研修<br/>6. 報告制度<br/>7. インシデント・アクシデントの診療記録記載<br/>8. 医療事故等発生時の対応<br/>9. 患者からの相談への対応<br/>10. 指針の閲覧および医療従事者と患者との情報共有<br/>11. 指針の改訂</p>  |     |
| ② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況  |     |
| <p>1. 医療安全対策委員会（平成25年度 年12回開催 内訳：定例11回、臨時1回）</p> <p>・人員構成：医療安全対策担当副院長、医療安全管理室長、医療安全管理者、医療機器安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、感染制御部長を含む<br/>医師12名、看護師2名、薬剤師1名、管理栄養士1名、臨床検査技師1名、事務職1名で構成</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>1) 医療安全に係る事項の審議<br/>・医療安全管理に係る基本方針<br/>・リスクマネージャー会議・医療安全管理室からの報告事項に関すること<br/>・医療安全対策の立案・実施に関すること<br/>・医療安全推進に関すること</p> <p>2) 事故発生時の対応<br/>・事故報告書（アクシデント・合併症・バリエーション報告書）の確認<br/>・患者・家族、マスコミに対する病院としての対応策の検討</p> <p>3) 医療安全管理室への改善策等の提言</p> <p>2. リスクマネージャー会議（年12回）</p> <p>・人員構成：医療安全対策担当副院長、医療安全管理室長、医療安全管理者を含む<br/>リスクマネージャー（医師41名、看護師36名、技術職17名、事務職10名）</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>1) 当院のインシデント・アクシデント事例の共有<br/>2) 事故の発生要因分析と対策の検討とその評価<br/>3) マニュアル、事故防止対策の実施状況および評価<br/>4)</p> |     |

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

平成25年度 50回

1)全職員対象

| 回数・内容                         | 開催日時  | 講師名   | 対象者      | 職種内訳 |     |         |     | 参加人数  |
|-------------------------------|---|---|----------|------|-----|---------|-----|-------|
|                               |   |   |          | 医師   | 看護師 | その他有資格者 | 事務員 |       |
| 第1回 チームアプローチは医療を支える           | 本講演:6/17<br>ビデオ講演:6/25<br>17:30~18:30と12:15~13:15<br>ビデオ貸出:7/17~9/17  | 鈴木 真先生<br>(亀田メディカルセンター 産科部長・総合周産期母子医療センター長) | 全職員      | 509  | 907 | 345     | 471 | 2232人 |
| 第3回 高齢者総合機能評価とせん妄対策           | 本講演:8/6<br>ビデオ講演:<br>9/2,3,6,12,18,10/30<br>17:30~18:30と12:15~13:15   | 小宮山 純先生<br>(川崎市立多摩病院 総合診療内科 診療部長)           | 全職員      | 158  | 491 | 275     | 396 | 1320人 |
| 第3回 高齢者総合機能評価とせん妄対策 (e-ラーニング) | 配信期間:11/8~12/8  |   | 集合研修未受講者 | 213  | 462 | 62      | 121 | 858人  |
| 第4回 入院患者の転倒防止対策               | 本講演:8/20<br>ビデオ講演:<br>9/20,24,26,10/2,7,30<br>17:30~18:30と12:15~13:15 | 小宮山 純先生<br>(川崎市立多摩病院 総合診療内科 診療部長)           | 全職員      | 166  | 533 | 277     | 208 | 1284人 |
| 第4回 入院患者の転倒防止対策 (e-ラーニング)     | 配信期間:12/9~1/17  |   | 集合研修未受講者 | 227  | 438 | 57      | 195 | 917人  |

|                 |   |  |     |     |     |     |     |           |
|-----------------|---|--|-----|-----|-----|-----|-----|-----------|
| 第5回<br>医療安全の日   | 本講演:11/25<br>ビデオ講演:<br>12/6,10,16,18<br>17:30~18:30<br>と 12:15~13:<br>15 ビデオ貸し出<br>し:12/27~1/31 | 座長: 田中雄一郎<br>先生 (医療安全管<br>理室長)パネリスト<br>:<br>三宅良彦先生<br>(当時 大学病院<br>長) 幕内晴朗先<br>生 (当時 心臓血<br>管外科診療部長)<br>北川博昭先生(事<br>故調査委員会委員<br>長) 舘田武志先生<br>(麻酔科診療部長)<br>信岡祐彦先生(職<br>員研修会委員会C<br>V部会長) | 全職員 | 477 | 769 | 292 | 304 | 1842<br>人 |
| 第6回<br>重大医療事故発生 | 本講演:1/31<br>ビデオ講演:<br>2/18,19,25,26,27<br>ビデオ貸し出し:<br>2/20~3/12                                 |  | 全職員 | 300 | 533 | 297 | 240 | 1370<br>人 |
| KYT研修会<br>基礎編   | 4/15, 5/16, 6/7,<br>20, 7/2, 11/6, 1/20   | 竜トシ子(当院医療<br>安全管理者) 井上<br>浩子 (当院医療安<br>全管理室師長)   | 全職員 | 1   | 85  | 14  | 4   | 104<br>人  |
| KYT研修会<br>実践編   | 5/29, 7/29  | 竜トシ子 (当院医<br>療安全管理者) 井<br>上浩子 (当院医療<br>安全管理室師長)  | 全職員 | 0   | 13  | 9   | 1   | 23<br>人   |

参加者合計 9950 人

職員一人当たり 4.2 回 / 年



2)対象者限定研修会

| 内容                         | 開催日時       | 講師名                                    | 対象者         | 職種内訳 |     |         |     | 参加人数 |
|----------------------------|------------|--|-------------|------|-----|---------|-----|------|
|                            |            |  |             | 医師   | 看護師 | その他有資格者 | 事務員 |      |
| 医療安全研修                     | 4月2日       | 竜トシ子(当院医療安全管理者)                        | 新入職者        |      |     |         |     | 252人 |
| 第1回<br>中途入職者研修             | 7月3日、30日   | 竜トシ子(当院医療安全管理者)                        | 中途入職者       | 2    | 5   | 1       | 23  | 31人  |
| 第2回<br>中途入職者研修             | 11月8日      | 竜トシ子(当院医療安全管理者)                        | 中途入職者       | 5    | 5   | 2       | 8   | 20人  |
| 第3回<br>中途入職者研修             | 2月21日      | 竜トシ子(当院医療安全管理者)                        | 中途入職者       | 2    | 8   | 1       | 11  | 22人  |
| 新RM対象研修                    | 5/15,5/24  | 竜トシ子(当院医療安全管理者)                        | 新リスクマネージャー  | 16   | 3   | 1       | 6   | 26人  |
| 新人看護師研修                    | 8/23,29,30 | 竜トシ子(当院医療安全管理者) 井上浩子(安全管理室 師長)         | 新人看護師       |      | 120 |         |     | 120人 |
| リスクマネージャー<br>対象研修          | 9/21,10/5  | 鈴木 真先生(亀田メディカルセンター産科部長・総合周産期母子医療センター長) | 全リスクマネージャー  | 33   | 29  | 17      | 10  | 89人  |
| e-ラーニング研修<br>平成24年度6点未満者研修 | 5/2~5/31   |  | 平成24年度6点未満者 |      |     |         |     | 88人  |

|                         |           |  |             |  |  |  |  |    |
|-------------------------|-----------|--|-------------|--|--|--|--|----|
| e-ラーニング研修平成24年度6点未満者再研修 | 6/11~6/15 |  | 平成24年度6点未満者 |  |  |  |  | 2人 |
|-------------------------|-----------|--|-------------|--|--|--|--|----|

参加者合計 650 人

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (  有 ) 無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
  - 1) 侵襲的な検査・処置でのタイムアウトの実施  
昨年度は、検査室に於ける侵襲的な検査・処置の施行時にタイムアウトを実施する事を手順に組み入れ実施したが、さらに範囲を拡大し、病棟においても侵襲的な処置・検査施行時はタイムアウトを実施することを取り決めた。
  - 2) 患者急変時対応シミュレーションの実施  
一般病棟において患者急変時のBLSが効果的に実施されない事例が発生したため、患者急変を想定しての訓練を医師・看護師・事務が参加し病棟単位で実施した。

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況  (1名) ・ 無

⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況  (10名) ・ 無

⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況  ・ 無

- ・ 所属職員： 専任10名（看護師2名、事務職員8名）  
兼任8名（医師5名、薬剤師1名、診療放射線技師1名、臨床工学技士1名）
- ・ 活動の主な内容：
  - 1) 事故防止に関する活動
    - ・ 医療安全管理指針の周知徹底
    - ・ インシデント・アクシデントレポートの集計、分析、改善策の検討・策定・評価、管理
    - ・ 各部門のリスクマネージャーとの連絡調整
    - ・ 医療安全に関するマニュアル、手順の作成と更新
    - ・ 各部門の安全活動状況の把握（巡視）と指導
  - 2) 事故調査に関する活動
    - ・ 事故発生時の調査、分析と改善策の検討・策定・評価
    - ・ 事故調査委員会
  - 3) 安全教育・啓蒙活動
    - ・ 安全管理に関する教育・研修の企画、運営
    - ・ 至急回報、e-ラーニング研修の配信
    - ・ 安全管理に関する会議の運営
  - 4) 患者相談業務
    - ・ 苦情、相談の受付及び処理
    - ・ 苦情、相談等に係る調査及び報告
    - ・ 患者相談窓口の管理運営
    - ・ 苦情、相談事案の改善、活用
    - ・ メディエーターに関すること
  - 5) 紛争処理業務
    - ・ 医療紛争の処理
    - ・ 医療の法務・訴訟
    - ・ 証拠保全等行政・司法機関からの照会等対応
    - ・ 医療事故、紛争の調査
    - ・ 医療ADRに関すること
  - 6) 院内警備（保安）に関すること

⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況  有 無

(様式第 6)

### 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

|   |       |
|---|-------|
| ① 院内感染対策のための指針の策定状況   | 有・無   |
| <ul style="list-style-type: none"><li>指針の主な内容：「医療関連感染対策指針」を作成し、院内マニュアルである「院内感染防止の手引き（第4版）」の冒頭に掲載している。指針の主な内容は次の通りである。1. 基本理念、2. 感染管理に係る組織、委員会、3. 職員研修、教育の実施、4. 感染対策マニュアルの整備、5. 医療関連感染サーベイランスの実施、6. 適正抗菌薬療法の推進、7. 職業感染防止、8. 院内感染発生時の対応、9. 患者への情報提供と説明、10. 指針の改訂</li></ul>  |       |
| ② 院内感染対策のための委員会の開催状況  | 年 11回 |
| <ul style="list-style-type: none"><li>活動の主な内容：夏期休暇を除く毎月感染委員会が開催されている。委員長は感染制御部部長で、委員は感染制御部、主たる診療科医師、看護部、臨床検査部、薬剤部、病理診断科、事務（施設、人事など）の職員で構成されている。活動の主な内容は次の通りである。1. 院内感染サーベイランスを含む疫学に関すること、2. 院内感染の発生の要因及び対応に関すること、3. 滅菌及び消毒に関すること、4. 院内感染で注意すべき微生物及びその感染防止に関すること、5. 原因微生物別感染防止対策に関すること、6. 用途別、菌種別消毒薬に関すること、7. 感染症法等で規定された感染症の届出に関すること、8. 感染症報告書に関すること、9. 労働災害上の感染措置及び取扱いに関すること、10. 院内感染防止のための検査に関すること、11. 環境微生物検査に関すること、12. 感染性廃棄物の適正処理に関すること、13. 院内感染防止マニュアルの改訂に関すること、14. 病院長からの諮問事項に関すること、15. その他、感染防止に関すること。</li></ul>                    |       |
| ③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況  | 年 25回 |
| <ul style="list-style-type: none"><li>研修の主な内容：全職員対象の研修会を年3回開催している。それ以外に、新入職員に対する講習、看護師を対象にした講習（コース）、院内清掃業者を対象にした講習などを合計すると年間25回程度の講習会を開催している。研修の主な内容は以下の通りである。<ol style="list-style-type: none"><li>院内感染の発生要因分析と改善策等の検討及びその評価</li><li>マニュアル、改善策等の実施状況及び効果の評価</li><li>感染防止の推進に関する事項</li></ol>※平成25年度研修会（全職員対象）内容：「薬剤耐性菌感染症対策-その治療と感染予防策を見直す-」（感染症に関する講演会）、「風疹の全国的流行をめぐって」（感染担当者意見交換会）、「チームで進める感染対策とリスク管理」（感染症学術講演会）<br/>【対象者別で行った講演会】「院内感染防止対策について」、「標準予防策の技術について」、「静脈注射における安全管理」、「SSI講演会」、「血流感染予防策」、「ノロウイルス対策」等</li></ul>                   |       |
| ④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況   |       |
| <ul style="list-style-type: none"><li>病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</li><li>1. 「感染症発生報告書」に基づいて行政へ報告を行い、毎月院内向けに集計・報告している。</li><li>2. 毎月診療科毎の臨床分離菌の検出状況、薬剤感受性を集計して報告している。</li><li>3. 診療科毎の抗菌薬使用状況を集計して報告している。</li><li>4. サーベイランスを実施（SSI・針刺し切創など）し、院内講習等で報告している。</li><li>その他の改善のための方策の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>抗MRSA薬・カルバペネム薬の使用届出制度（電子カルテによる症例の確認）</li><li>細菌検査室からの報告（日報・週報）に基づいて症例毎に助言を行う。</li><li>ICTによる病棟ラウンド・コンサルテーションの実施</li><li>当院のマニュアルである「院内感染防止の手引き」の内容の追加・変更と職員への周知</li><li>「感染制御部ニュース」（ニュースレター）の発行</li></ol></li></ul> |       |

(様式第6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

|  |         |
|--|---------|
| ① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況   | ② (有)・無 |
| ③ 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況   | 年24回    |
| <ul style="list-style-type: none"><li>研修の主な内容：平成25年度<br/>医療安全職員研修会 医療安全における薬剤取り扱いの注意点について<br/>新人看護職員技術研修 安全な与薬（薬剤師の立場から）<br/>薬剤師による病棟研修会（癌性疼痛管理について、新人看護師勉強会 ステロイドについて、採用薬の説明など）</li></ul>   |         |
| ④ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況   |         |
| <ul style="list-style-type: none"><li>手順書の作成 (有)・無</li><li>業務の主な内容：<br/>医薬品保管管理・調剤・供給・情報提供・安全使用・教育研修<br/>年3回、医薬品安全管理に関する定期巡回を実施<br/>その回毎に重点項目を決め、保管状況、期限等を確認する<br/>手順書に基づく業務の実施状況の確認</li></ul>   |         |
| ④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況  |         |
| <ul style="list-style-type: none"><li>医薬品に係る情報の収集の整備 (有)・無</li><li>その他の改善のための方策の主な内容：<br/>薬剤部内に医薬品情報室を設置し、製薬会社、DSU、PMDA、海外文献、学会誌、大学図書館より最新情報を入手し、情報提供を行っている。<br/>また、院内で起こった副作用を収集し、薬事委員会で周知徹底している。</li><li>その他の改善のための方策の主な内容：<br/>2010年度<ul style="list-style-type: none"><li>1病棟1名の、病棟担当薬剤師の配置が完了した<br/>医師看護師等の医薬品に対する疑問への情報提供を短時間で行う<br/>情報提供をカンファレンスや病棟会で密に行う</li></ul>2011年度<ul style="list-style-type: none"><li>薬剤部以外で抗がん剤を調製する場合の手順作成</li><li>MUE (Medication Use Evaluation) の実施</li></ul>2012年度<ul style="list-style-type: none"><li>薬剤部から発信する医薬品に係る情報が、職員全員に周知できているか確認する為に、閲覧者リストの提出を各部署に義務付けた。</li></ul>2013年度<ul style="list-style-type: none"><li>NICU病棟における輸液調製過誤防止目的で薬剤師が無菌輸液調製に関与する。また、手術室においても麻薬調製過誤防止目的で薬剤師がPCAポンプ調製に関与する。</li></ul>2014年度<ul style="list-style-type: none"><li>画像監査システムの導入</li><li>手術室における硬膜外麻酔注射薬の調製</li></ul></li></ul> |         |

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

|  |      |
|--|------|
| ① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況  | 有・無  |
| ② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況  | 年 数回 |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容 :</li><li>・ ポンプなど全部署で使用する機器に関して新入職者、新研修医を対象とした研修会を年 1 回行っている。</li><li>・ 人工呼吸器などは必要に応じ病棟単位で 1 年を通し行っている。</li><li>・ 救命センターなど特殊な機器を使用する部署には、研修医などの異動時に CHDF、PCPS などの操作説明を行っている。</li></ul> |      |
| ③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況  |      |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ 計画の策定 ( 有・無 )</li><li>・ 保守点検の主な内容 :</li><li>・ 保守点検の主な内容 :</li><li>・ 中央管理機器 (人工呼吸器、シリンジポンプ、輸液ポンプ等) な使用後の終業点検と年 1 回の定期点検を行っている。</li><li>・ 病棟に設置してある除細動器などは定期的なラウンドと年 1 回の定期点検を行っている。</li></ul>   |      |
| ④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況  |      |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( 有・無 )</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容 :</li><li>・ 医療機器の不具合などの情報は、メーカーより事務局に集中して入るようになっています。</li><li>・ 医薬品医療機器総合機構などより情報を収集</li><li>・ 収集した情報は医療機器安全管理委員会名で教職員にメール配信</li></ul>     |      |

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

|   |       |
|---|-------|
| ① 病院の機能に関する第三者による評価の有無  | ① 有・無 |
| ・評価を行った機関名、評価を受けた時期<br>評価機関名：公益財団法人 日本医療機能評価機構<br>評価時期：平成23年11月 |       |

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

|  |       |
|--|-------|
| ① 果たしている役割に関する情報発信の有無  | ① 有・無 |
| ・情報発信の方法、内容等の概要<br>・HPでの情報発信。病院案内のページに先進医療や専門外来を掲載。<br>・講演会開催や、地域医療施設へパンフレット「地域の輪」を配布。 |       |

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

|  |       |
|--|-------|
| ① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無   | ① 有・無 |
| ・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要<br>・診療科間において、診療依頼票による書面での依頼を行う。<br>・合同カンファレンスの実施や電子カルテにより情報共有をし連携をとっている。<br>・センター化することにより、複数科でのチーム医療を実施。 |       |

(様式第 8)

番 号  
平成 26 年 10 月 3 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 聖マリアンナ  
理事長 明石 勝

聖マリアンナ医科大学病院の標榜する診療科の整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1 診療科名

1-1 標榜する診療科の区分

|  |
|--|
| ① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科すべてを標榜<br>2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜 |
|--|

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○を付けること。

1-2 標榜している診療科名

(1) 内科

|   |         |
|---|---------|
| 内科  | (有) ・ 無 |
| 内科と組み合わせた診療科名等<br>1 内科 2 呼吸器・感染症内科 3 消化器・肝臓内科 4 循環器内科 5 腎臓内科 6 神経内科<br>7 血液内科 8 代謝・内分泌内科 9 リウマチ内科 10 腫瘍内科 |         |
| 診療実績  |         |

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

|   |         |
|---|---------|
| 外科  | (有) ・ 無 |
| 外科と組み合わせた診療科名<br>1 呼吸器外科 2 消化器外科 3 乳腺・内分泌外科 4 心臓血管外科 5 小児外科 |         |
| 診療実績  |         |

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

|          |      |       |        |       |          |       |
|----------|------|-------|--------|-------|----------|-------|
| ①精神科     | ②小児科 | ③整形外科 | ④脳神経外科 | ⑤皮膚科  | ⑥泌尿器科    | ⑦産婦人科 |
| 8産科      | 9婦人科 | ⑩眼科   | ⑪耳鼻咽喉科 | ⑫放射線科 | 13放射線診断科 |       |
| 14放射線治療科 | ⑮麻酔科 | 16救急科 |        |       |          |       |

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

|               |                  |   |   |   |   |   |
|---------------|------------------|---|---|---|---|---|
| 歯科            | 有 ・ <del>無</del> |   |   |   |   |   |
| 歯科と組み合わせた診療科名 |                  |   |   |   |   |   |
| 1             | 2                | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 歯科の診療体制       |                  |   |   |   |   |   |

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外で標榜している診療科名

|        |         |    |    |    |    |    |
|--------|---------|----|----|----|----|----|
| 1 形成外科 | 2 病理診断科 | 3  | 4  | 5  | 6  | 7  |
| 8      | 9       | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15     | 16      | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

### 3 不足している診療科の整備のための予定措置

|   |
|---|
| <p>1. 救急科については、平成27年度中に設置予定。</p> <p>2. 歯科については、平成26年度中に近隣の歯科診療所との連携により歯科医療を提供する体制整備を図る。</p> |
|---|